

考えるTIPS-03- マインドマップ作文編

こんにちは。

古淵駅に上がっていく坂の入り口で学習塾をしている、クルゼミナールの久留茂（くるしげる）と申します。

古淵で個人塾を開いて14年になりました。塾の仕事は30年目になりました。その中で指導してきた勉強方法のヒントなどをご紹介します。第3回目は作文の指導です。

マインドマップ作文編

国語の力が頭をよくする！

国語力は学力の源泉です。数学や社会や理科、そればかりか英語でさえ国語を利用して教えられ、考え、問題を解いていきます。つまり、国語力は全教科の土台となる力なのです。国語力がついたら全教科の成績が上がったという例はたくさんあります。

しかし、国語の勉強法は、これだっ！と言ったものはありませんでした。よく「読書をすれば国語力は上がる」という人がいます。

嘘です。いや、本当です。確かに読書は有効です。少なくとも読まないよりも読んだほうがいいことは確かです。でもそれは国語の勉強法ではありません。と言うのも、上の空で読んでも読書は出来てしまふからです。そういう人は、いくらか読書しても身につけにくいのです。

ただ、読書で少しでも力をつけたかったら音読すると言う方法があります。大声で本を読めば黙読よりもはるかに力がつきます。それでも、やはり限界があります。その理由は、読書が受身だということです。他人が書いたことを受け入れるのが読書です。

どんなことでも、受身ではなかなか力がつきにくいですよ。サッカーだってピアノだって、自分から積極的に練習をしなければなかなか上達できません。では、どうすれば攻めの姿勢で国語力を上げることができるのでしょうか。

結論を言いましょ。

それは「作文」です。それも、「読んでくれる人を意識して書く作文」が一番効果的です。だって、文を書くということは、誰かに何かを伝えるためだからでしょう。読む人がいる文を書くことが大切なのです。そして、そういう攻めの姿勢で作文を書けば確実に国語力が上がります。

だから、作文を書きましょう、というのはたやすいのですが、実際は作文嫌いな人が大勢います。自分で頭をつかって文章を組み立てることで、表現力、想像力、忍耐力が付き、脳が活性化して頭がよくなるのに、なかなか書くことができません。

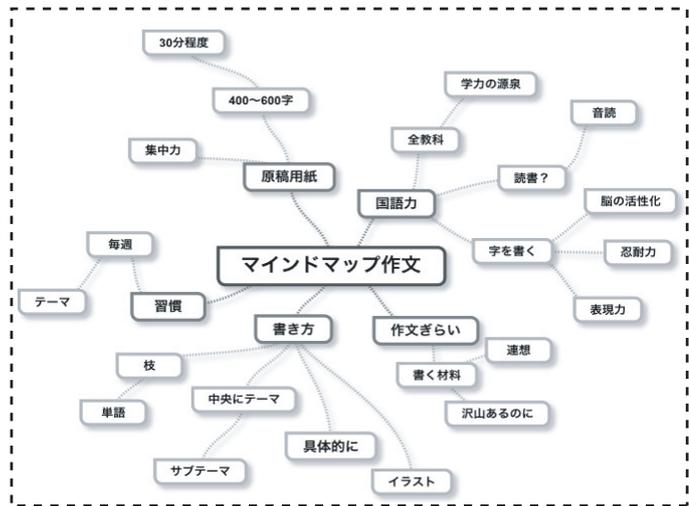
「だって、何を書いたらいいのかわからないもん」「書くことがない」

実際、生徒に作文を書かせると、はじめは半数の生徒がこう言っただけで書きません。ところが、3ヶ月もすると、そういうっていた生徒たちが30分から1時間ですらすらとテーマ性のある作文を書くことができるようになります。

その秘密がマインドマップです。

（秘密じゃないですが）マインドマップについては、最近色々な書物が売られています。トニーブザンという人が提唱しているノートのとり方です。簡単に言うと、放射状に言葉が伸

びていくメモのようなものなのです。マインドマップの説明をしているといくら書いても書ききれないので、実物を見てください。



これが、この原稿を書くのに使用したマインドマップです。（実際はカラーです）このように、ひとつのテーマを中心として放射状に単語が伸びていきます。これを書いてから作文を書くのです。

そうすると面白いように作文が書けるようになります。

方法は、簡単です。中央に作文のテーマを書きます。そして、その周りに、関係する言葉を3〜6くらい枝のように伸ばします。テーマが大きすぎる内容のときは、サブテーマを中央に書き加えて、サブテーマから連想する単語を枝として伸ばします。枝が伸びたら、イラストや連想する単語を伸ばしていきます。する

と、次々に書く内容が思い浮かぶようになります。手を動かし、視線を動かし、関連する言葉を次々と組み合わせることで脳が活性化するのでしょう。

クルゼミナールでは、生徒全員が毎週出されるテーマで400字から600字の作文を書いています。小学生から高校生まで全員が30分から1時間でマインドマップと作文を書き上げます。その結果、テストで読解問題の正解率がグンとあがりました。

おっと、もう紙面がありません。ぜひご家庭でも試してみてください。さらに詳しく知りたい方は、クルゼミナールに直接お問い合わせください。

古淵駅徒歩4分 ファミマ向かい
小・中・高 進学・補習・学習塾
クルゼミナール
〒229-0004 古淵4-10-19
http://kurusemi.com
e-mail:kurusemi@jmfu.com
0120-121-546